

平成29年度全国学力・学習状況調査 川越市立小・中学校の調査結果（中学校3年）

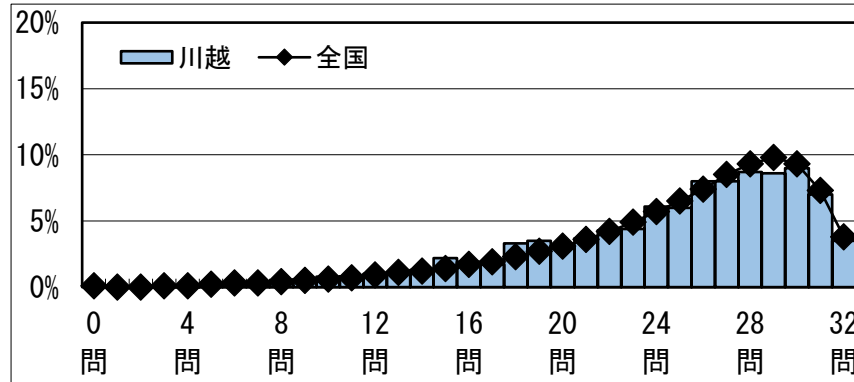
教科に関する調査 中学校：国語

平均正答率 国語A：76% 国語B：72%

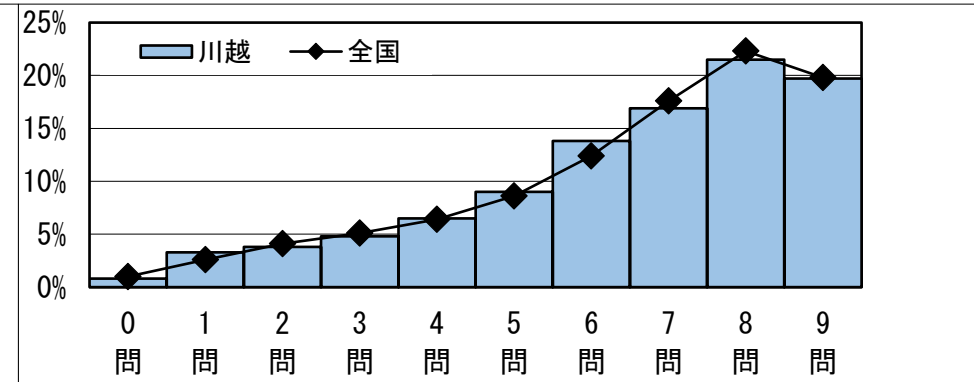
正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）

1 正答分布率（正答数ごとの児童の割合）

【国語A】主として「知識」に関する問題



【国語B】主として「活用」に関する問題



2 国語の調査結果の概要及び指導改善のポイント（◇良好である点 ◆課題がある点）

【結果概要】◇目的に応じて資料を効果的に活用して話すことは、相当数の生徒ができています。

◇文脈に即して漢字を正しく読むことは、相当数の生徒ができています。

◆事象や行為などを表す多様な語句について理解することに課題がある。

◆場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することに課題がある。

【指導改善のポイント】

○事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるために、それぞれの語句が話や文章の中でどのように関連付けて使用されているか、自分が表現するときどのように活用すればよいかについて辞書等を用いながら考える機会を意図的に設ける必要がある。

○目的に応じて一つ一つの叙述の意味を捉える力を身に付けるために、着目した語句や文が含まれる部分を読んで考えるだけでなく、文章中の時間的、空間的な場面の展開などに注意して文章全体を読んだ上で考えるように指導する必要がある。その際、生徒の実態に応じて、話の展開に注意して読むとはどういうことなのかについて、文章の具体的な内容を取り上げながら説明することも大切である。

平成29年度全国学力・学習状況調査 川越市立小・中学校の調査結果（中学校3年）

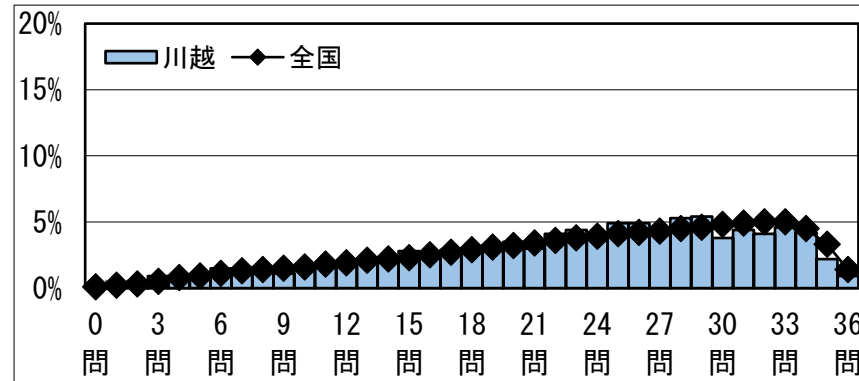
教科に関する調査 中学校：数学

平均正答率 数学A：64% 数学B：47%

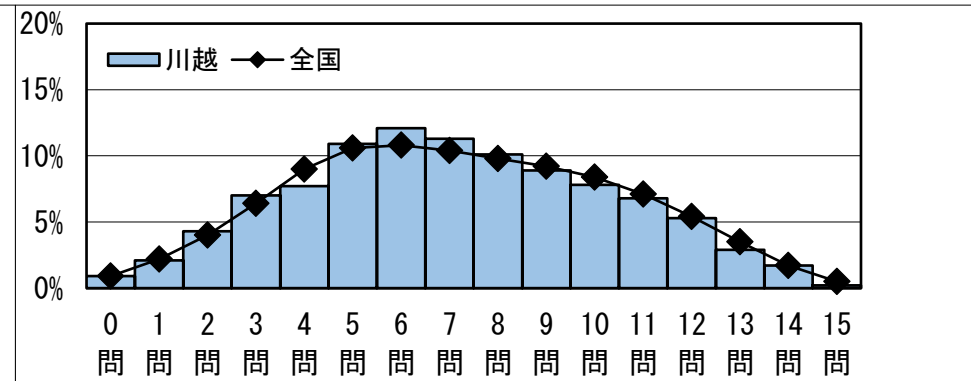
正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）

1 正答分布率（正答数ごとの児童の割合）

【数学A】主として「知識」に関する問題



【数学B】主として「活用」に関する問題



2 数学の調査結果の概要及び指導改善のポイント（◇良好である点 ◆課題がある点）

【結果概要】◇実生活の場面において、ある数量が正の数と負の数で表されることへの理解については、相当数の生徒ができています。

◇円錐が回転体としてどのように構成されていることへの理解については、相当数の生徒ができています。

◆反比例の表から、比例定数を求めることに課題がある。

◆2つの図形の間を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

【指導改善のポイント】

○2つの数量の間から関数関係を見いだすことができるようにするために、具体的な事象における2つの数量について一方の値を決めれば他方の値がただ1つ決まる関係を確認する活動を重視することが大切である。さらに、その2つの数量について変化や対応の様子を表・式・グラフを用いて捉え、それらを相互に関連付けて考察することを通して、どのような関数になりそうか検討し、関数関係を判断する活動も大切である。

○図形に着目して見いだした事象の特徴を数学的に表現できるようにするために、前提とそれによって説明される結論の両方を数学的に表現する場面を設定することが大切である。その際、説明される結論が正しいものとなるようにするためには、前提となる条件が不足していないかどうかについて検討したり、振り返ったりする活動を重視することが大切である。